

TSK 高風圧熱風発生機

H型シリーズ

取扱説明書 総合編

●ご使用前に必ずお読みください。

- ◆ このたびは、TSK熱風発生機をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。
- ◆ 本体の銘板にて、型式、品番、電圧がご注文の製品に相違ないかをご確認ください。



1. ご使用上の注意

2. 据え付け

3. 配管

4. 電源

5. 保守点検

6. 各部の名称と働き

7. サービス端子

8. 異常検出

保証

TSK高風圧熱風発生機

- ・ TSK-22H4
- ・ TSK-32H5
- ・ TSK-52H6
- ・ TSK-53H7
- ・ TSK-62H8(受注品)
- ・ TSK-72H9(受注品)

熱風発生機をもっと便利にご利用いただくために、当社ホームページに熱風発生機の『便利な機能』を掲載しています(メインメニュー内取扱説明書PDFページ)。



この取扱説明書の内容は予告無しに変更します。また、取扱説明書中の図、及び表示は実際の仕様を保証するものではありません。この取扱説明書を製造者の許可なくして変更、複製することを禁じます。

1. ご使用上の注意 ※ご使用前に必ずご確認ください。

故障無く熱風発生機をご使用いただくために

- ◆ 過去に発生した故障の原因となった重要な注意事項を記載しています。貴社の使用方法とご照会いただきますよう、お願い申し上げます。

● 熱風発生機吸入口の高性能フィルタ(標準装備)は常に清掃してください。フィルタの目詰まりにより、ヒータ内部が異常過熱し、運転ができなくなる場合があります。

● 熱風発生機の設置場所雰囲気に、ほこり、粉塵、カーボン繊維等の通電性浮遊物、油分、油煙、オイルミスト、水分、水蒸気体が含まれる場合、それらが熱風発生機操作内部に付着、混入すると熱風発生機の故障につながります。

● 熱風発生機の吐出口への配管は必ずメン型フェール、UCクランプ、シリコンOリングを使用して確実に固定してください。本機は高風圧タイプのため、吐出口配管を確実に固定しない場合、熱風漏れが発生します。漏れた高温の熱風は熱風発生機内へ逆流し、操作パネル内の電子機器が破損する原因となります。

● 入力端子A1～A10、及び出力端子B8～B10は電圧をかけると故障します。また、出力端子B1～B7は定格以上の電圧をかけると故障します。

● サービス端子の配線は、AC電源線、動力線、高調波線と隣接配線や結束しないでください。ノイズにより内部電子機器が破損します。

● 熱風発生機の一次側に設けられた電磁接触器等で熱風発生機の運転停止をおこなわないでください。サージ電圧により内部電子機器が破損します。

● 落雷によって発生した誘導雷サージは熱風発生機の損傷、誤動作、もしくは火災等の事故につながります。落雷の影響を受ける可能性のある場所で熱風発生機をご使用になる場合は、必ずアレスタ(避雷器)の取り付け等による落雷対策を施してください。

● 熱風発生機の電源には必ず正弦波波形を持つ商用電源(50/60Hz)を使用してください。高調波を含んだひずみ波を持つ周波数変換器等からの電源は絶対に使用しないでください。高調波、ノイズ等により内部電子機器が破損します。

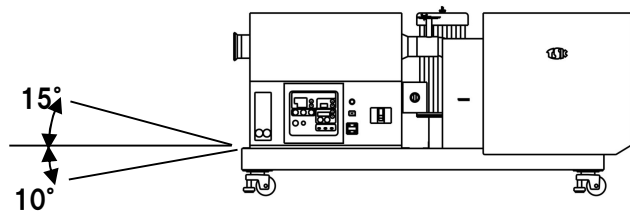
● 熱風発生機吐出口に装備されている温度計測用センサを曲げたり、高さを変更しないでください。ヒータに接触するとショートします。

《熱風温度、設定温度、風量調節、タイマ表示部の表示文字一覧》

0 123456789A B C D E F G H I J K L M N O P Q R S T U V W Y

2. 据え付け

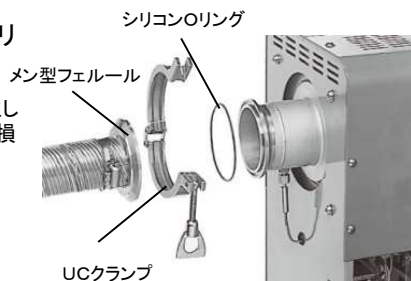
- ① 水平の位置へ設置してください。
前後の傾斜は右図をご参照ください。
また、左右の位置は水平に設置してください。
- ② アジャスタを利用して、しっかりと固定してください。
- ③ 設置できない場所
 - ・ 振動のある場所
 - ・ 可燃物の近辺
 - ・ 周囲温度0°C～+40°C以外の場所
 - ・ 周囲湿度85%R.H.以上の場所
 - ・ ほこり、粉塵等の多い場所
 - ・ 通電性浮遊物(カーボン繊維等)のある場所
 - ・ 気圧の低い場所
 - ・ 標高1000m以上の場所
 - ・ 屋外で風雨にさらされる場所
 - ・ 酸性ガス、腐食性ガス等が浮遊している場所
 - ・ 発熱部の上部
 - ・ 表面が壁等に密着される場所
 - ・ 密閉された部屋、及びケース内



※ TSK-62H8、72H9は下部スペースが送風機の排熱のために必要です。よってキャストを取り外して固定しないでください。

3. 配管

- ① 吐出口への配管は、必ずメン型フェール、UCクランプ、シリコンリングを使用して、確実に固定してください。
本機は高風圧タイプのため、吐出口配管を確実に固定しない場合、熱風漏れが発生します。漏れた高温の熱風は熱風発生機内に逆流し、操作パネル内の電子機器が破損する原因となりますので、充分にご注意ください。
- ② 締め切りに近い極端に圧力損失の高い配管はさけてください。
- ③ 配管は必ず十分な断熱を施工してください。
- ④ 熱風発生機を固定した状態で、吐出口のフェールへ引っ張り荷重をかけないでください。
- ⑤ 吐出口に吐出口口径より小さな配管を挿入しないでください。吐出口センサが曲がり、ヒータに接触します。



4. 電源

- ① 電源接続、及びアース工事は、電気工事士に依頼してください。
- ② 電源コードはR(赤)、S(白)、T(黒)、アース(緑)に従って接続してください。
- ③ 熱風発生機電源には必ず正弦波波形をもつ商用電源(50/60Hz)を使用してください。高調波を含んだひずみ波をもつ電源は絶対に使用しないでください。また、サージ電圧やノイズが電源に侵入しないように充分対策をおこなってください。
- ④ 専用回路を設けてください。漏電遮断器を取り付ける場合は、下記の表に従って感度電流の容量を決定してください。

型 式	漏電遮断器(ELB)感度電流目安
TSK-22H4・32H5	50mA
TSK-52H6・53H7・62H8・72H9	100mA

※ 漏電遮断器の感度電流は初期漏洩電流の約10倍程度が一般的です。

- ⑤ 熱風発生機の電源に発電機を使用する場合は、必ず正弦波波形をもつ定格周波数を確保した電源を供給してください。定格周波数を確保できていない電源が供給されると、正常な温度制御ができず、熱風運転ができない可能性があります。
- ⑥ 感電事故防止のため、アース工事をしてください(300V以下:D種接地 600V以下:C種接地)。

注意 長すぎる配線は電圧降下を起こすので、ご注意ください。

注意 配線、及び点検時は必ず電源を遮断してください。熱風発生機は本体のブレーカ(NFB)をOFFにしても操作回路には通電されていますので、必ず工場元電源(一次側電源)を遮断してください。電源を入れた状態で作業をおこなうと感電します。

注意 接続にコンセントを設ける場合は、十分な容量を確保してください。コンセントが経年劣化による接触不良、欠相等で発熱、故障することがあるので、なるべくコンセントの使用はひかえてください。

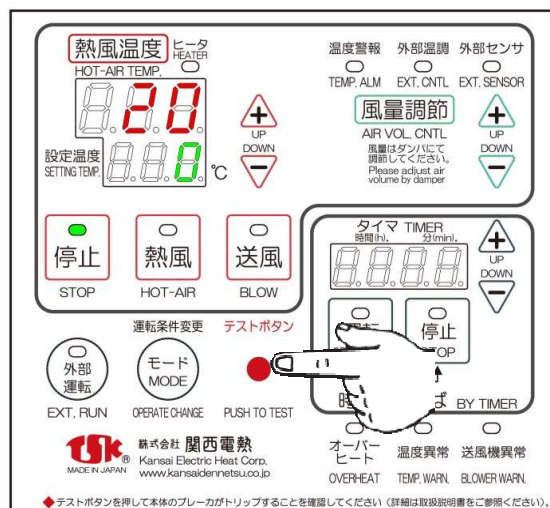
注意 熱風発生機は主に工業環境で使用される装置です。住宅環境等で使用する場合は、電波障害が発生するおそれがあります。その際、この製品の使用者は障害低減のために適切な手段を講じなければならないことがあります。

5. 保守点検

テストボタン

オーバーヒート時に本体のブレーカ(NFB)が正常にトリップするかを確認するためのテストボタンです。
月に一度、運転停止状態(通電中)においてテストボタンを数秒押し、オーバーヒートランプの点灯、オーバーヒート作動表示(P. 9参照)、及び本体のブレーカ(NFB)のトリップ動作を確認してください。

確認後は、元電源(工場電源)と本体ブレーカ(NFB)をいったんOFFにして、再度ONしてください。



吸入口金網、及びフィルタ点検

熱風発生機の吸入口には高性能エアフィルタが装備されています。フィルタは常に点検いただき、定期的に清掃してください。フィルタが詰まると、ヒータケース内が異常高温となり、オーバーヒート、または温度異常等が発生します。

※ 熱風発生機の送風機冷却部(モータヘッド部)にも異物吸い込み防止用金網が装備されていますので、この金網も常に点検、清掃してください。金網が詰まると送風機モータ温度が高温となり、モータ寿命が著しく短くなります。

保管

熱風発生機を長期間保管する場合は、結露、氷結等に充分ご注意ください。特に冬場は保管雰囲気温度が下がることにより結露が発生します。結露が発生した状態で低温下に保管されると氷結状態となり、電気部品等が故障する原因となります。

自主点検

本機をより安全にご使用いただくために、使用期間が10年を超えた場合、自主点検を実施することをおすすめします。

【自主点検項目】

- ・ 絶縁抵抗値の測定
- ・ ヒータ電流値の測定
- ・ 各端子台の増し締め点検
- ・ 操作盤内部の異物混入点検、清掃
- ・ 本体内部、吸入口の異物混入点検、清掃
- ・ 電気部品の動作、及び発熱点検
- ・ その他の目視点検

※ 自主点検につきましては、最寄りの電気工事業者様にご依頼ください。

注意 : 本機の絶縁耐電圧試験は絶対に実施しないでください(出荷時に実施済み)。故障の原因になります。

◆ 通電火災について

熱風発生機は、停電等の瞬停後、1秒以内の元電源の再投入により、自動的に瞬停前の運転を再開します。よって、通電火災防止のため、地震等の災害時に一次側電源を遮断する装置の設置をおすすめしますが、熱風発生機側でも停電復帰後の運転再開をおこなわない設定が可能です。

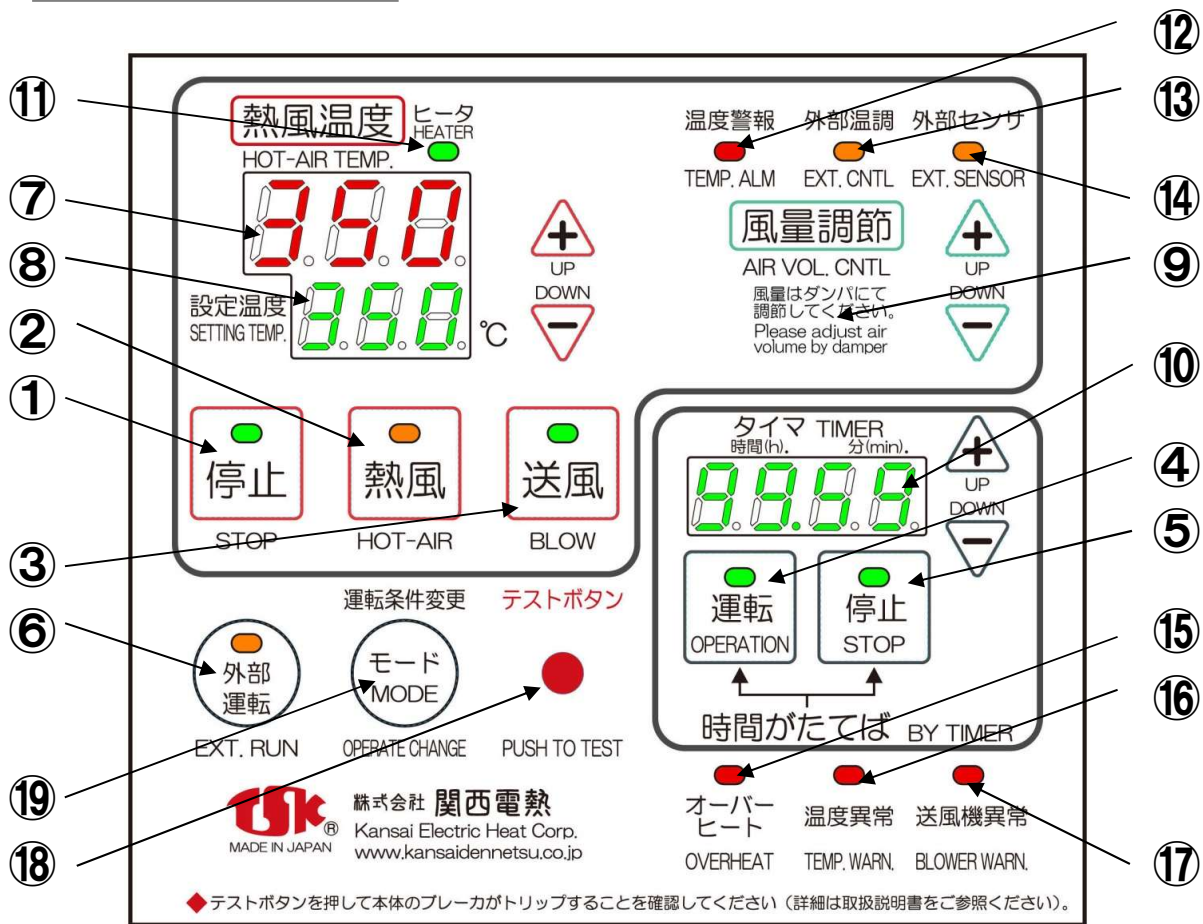
設定方法は、当社ホームページにアクセス <http://www.kansaidennetsu.co.jp>

日本語 → メインメニュー → テクニカルデータ

テクニカルデータ内の『通電火災対処方法』をご覧ください。

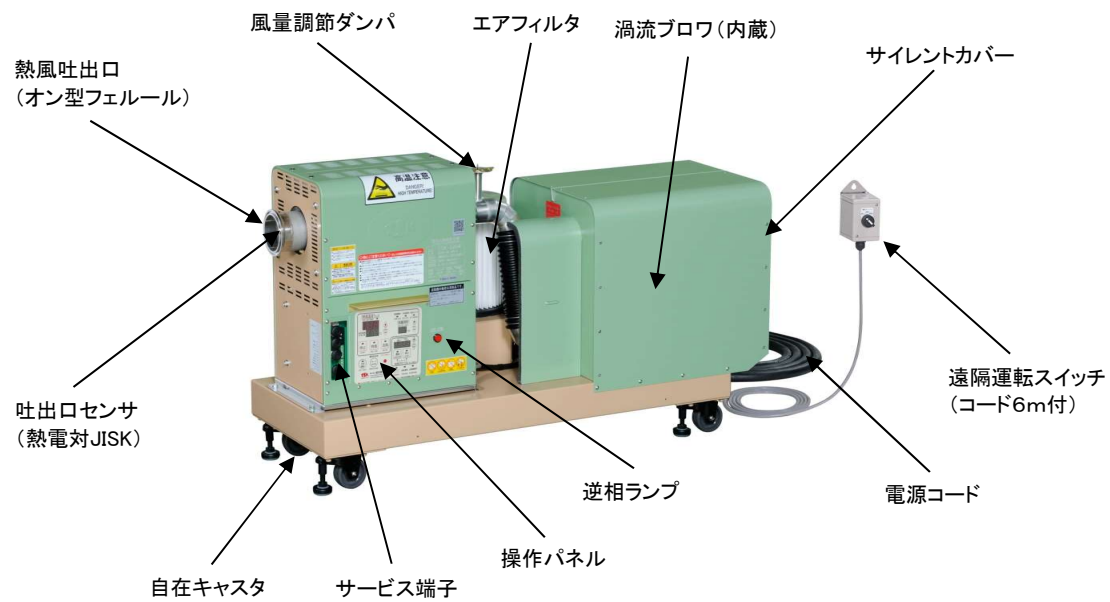
6. 各部の名称と働き

操作パネル(全機種共通)

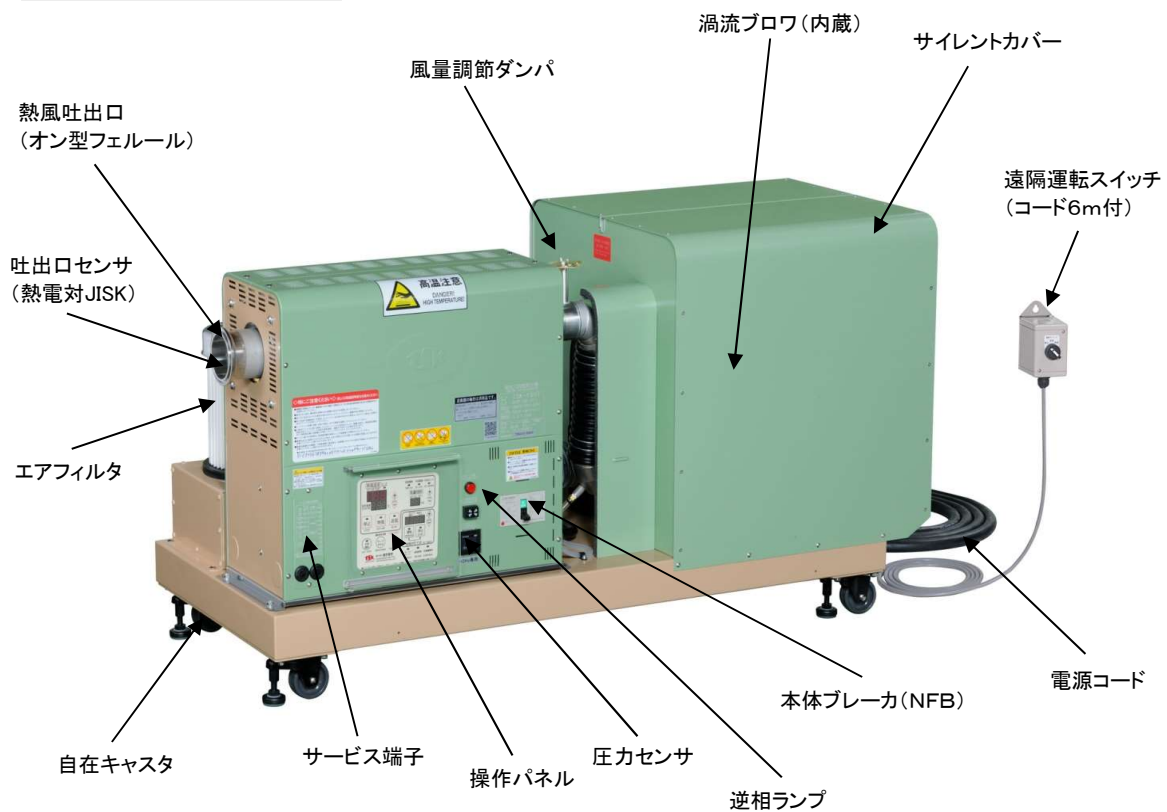


- ① 停止スイッチ
送風運転と熱風運転の停止、及びタイマ運転の解除用スイッチです。
- ② 熱風スイッチ
スイッチを押すと熱風運転を開始します。
- ③ 送風スイッチ
スイッチを押すと送風運転を開始します。
- ④ タイマ運転スイッチ
スイッチを押すと時間が経てば運転を開始する時間を設定できます。設定後、熱風スイッチを押してください。
- ⑤ タイマ停止スイッチ
スイッチを押すと時間が経てば運転を停止する時間を設定できます。設定後、熱風スイッチを押してください。
- ⑥ 外部運転スイッチ
スイッチを長押し(2秒)することで、外部運転信号、及び外部ヒータ入/切信号により運転できます。
- ⑦ 熱風温度表示
吐出口温度を表示します。運転条件を外部センサに切り換えると、外部センサの温度を表示します。
- ⑧ 設定温度表示
吐出口温度の設定温度を表示します。運転条件を外部センサに切り換えると、外部センサの設定温度を表示します。
- ⑨ 本機の風量は吸入側のD型ダンパにて調節してください。
- ⑩ タイマ設定表示
タイマの設定時間を表示します。タイムカウントにより減算していきます。
- ⑪ ヒータランプ
ヒータのON/OFF状態を点灯、点滅で表示します。
- ⑫ 温度警報ランプ
温度警報設定を入力している場合、温度警報設定値になると点灯します。
- ⑬ 外部温調ランプ
運転条件を外部温調へ切り換えると点灯します。
- ⑭ 外部センサランプ
運転条件を外部センサへ切り換えると点灯します。
- ⑮ オーバーヒートランプ
ヒータケース内が異常高温になった場合に点灯し、ブレーカ(NFB)がトリップします。
- ⑯ 温度異常ランプ
吐出温度が高温、または吸入温度が送風機の許容温度を超えた場合に点灯し、ブレーカ(NFB)トリップ、または送風運転になります。
- ⑰ 送風機異常ランプ
送風機が過負荷の時に点灯し、運転が停止します。
- ⑱ テストボタン
ボタンを押すことによりブレーカ(NFB)がトリップします。
- ⑲ モードスイッチ
運転条件を変更する場合に使用します。

MODEL : TSK-22H4



MODEL : TSK-53H7

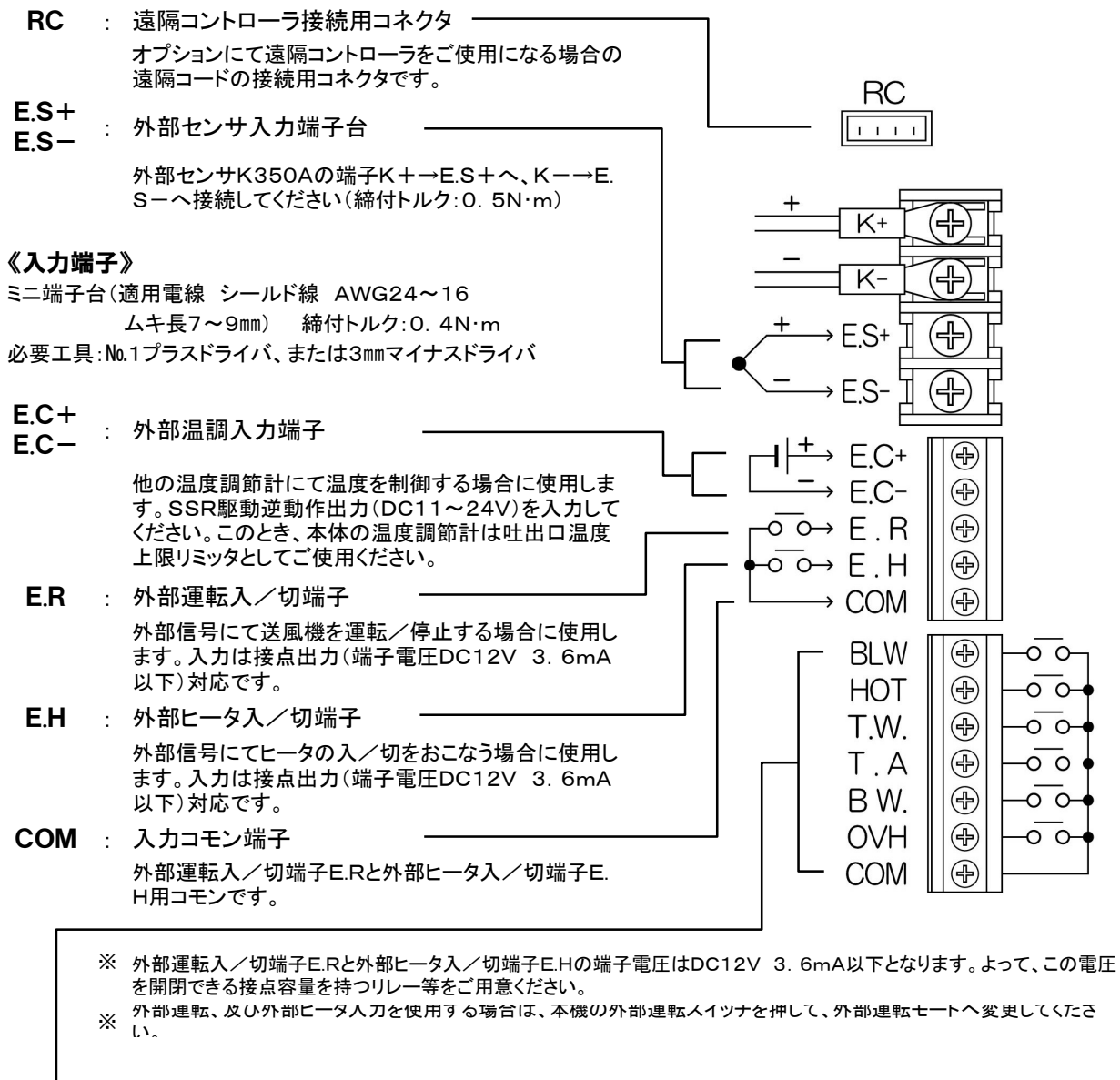


7. サービス端子

● 全機種に入力、出力のサービス端子を標準で装備しています。必要に応じてご利用ください。

【ご使用機種】 TSK-22H4・32H5

※ 出荷時、外部運転入／切端子E.Rと外部ヒータ入／切端子E.H、及び入力コモン端子COMには遠隔運転スイッチが接続されていますので、取り外してからご使用ください。



《出力端子》 接点容量DC5V 10mA以上、DC30V 1A以下 出力コモン合計3A以下(無電圧接点信号出力)
ミニ端子台(適用電線 シールド線 AWG24~16 ムキ長7~9mm) 締付トルク:0.4N・m
必要工具:No.1プラスドライバ、または3mmマイナスドライバ

- | | |
|--------------------------|---------------------|
| BLW : 送風機出力端子 | 送風機運転中、ONになる端子です。 |
| HOT : 熱風出力端子 | 熱風運転中、ONになる端子です。 |
| T.W. : 温度異常出力端子 | 温度異常時、ONになる端子です。 |
| T.A : 温度警報出力端子 | 温度警報出力時、ONになる端子です。 |
| B.W. : 送風機異常出力端子 | 送風機異常時、ONになる端子です。 |
| OVH : オーバーヒート出力端子 | オーバーヒート時、ONになる端子です。 |
| COM : 出力コモン端子 | |

※ 出力端子には保護回路が搭載されていないので、誘導負荷(ソレノイドバルブ、コンダクタ等)は配線しないでください。

注意 : サービス端子を使用される場合、必ず電源を遮断して配線してください。通電した状態で配線をおこなうと感電します。また、配線後は必ず端子カバーを取り付けてください。

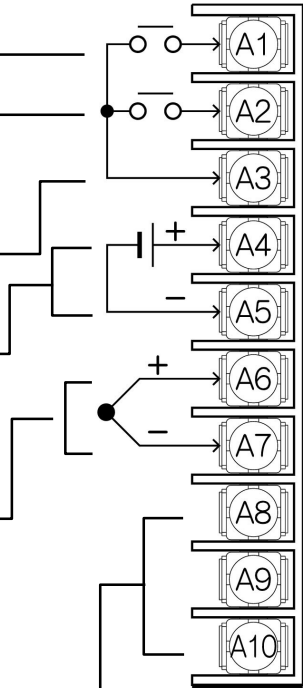
注意 : サービス端子の配線はAC電源線、電力線、高調波線と隣接配線や結束をさけてください。

【ご使用機種】 TSK-52H6・53H7・62H8・72H9

※ 出荷時、外部運転入／切端子A1と外部ヒータ入／切端子A2、及び入力コモン端子A3には遠隔運転スイッチが接続されていますので、取り外してからご使用ください。

《入力端子》 M3 20P端子台上段 締付トルク:0.5N・m

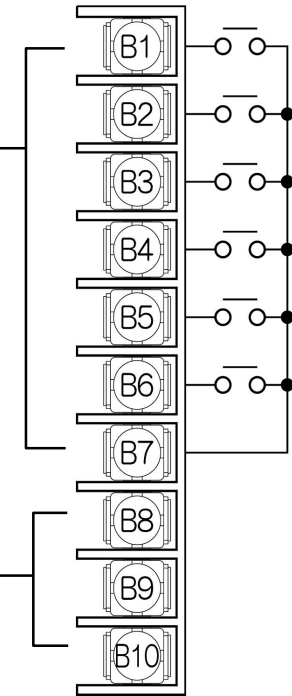
- A1** : 外部運転入／切端子
外部信号にて送風機を運転／停止する場合に使用します。入力は接点出力(端子電圧DC24V 7mA以下)対応です。
- A2** : 外部ヒータ入／切端子
外部信号にてヒータの入／切をおこなう場合に使用します。入力は接点出力(端子電圧DC24V 7mA以下)対応です。
- A3** : 入力コモン端子
外部運転入／切端子A1と外部ヒータ入／切端子A2用入力コモンです。
- A4・A5** : 外部温調端子
他の温度調節計にて温度を制御する場合に使用します。SSR駆動逆動作出力(DC11~24V)を入力してください。このとき、本体の温度調節計は吐出口温度上限リミッタとしてご使用ください(A4→+、A5→-)。
- A6・A7** : 外部センサ端子
外部センサK350Aの端子K+→A6へ、K-→A7へ接続してください。
※ 外部運転入／切端子A1と外部ヒータ入／切端子A2の端子電圧はDC24V 7mA以下となります。よって、この電圧を開閉できる接点容量を持つリレー等をご用意ください。
※ 外部運転、及び外部ヒータ入力を使用する場合は、本機の外部運転スイッチを押して、外部運転モードへ変更してください。
- A8・A9・A10** : 遠隔コントローラ接続用端子
オプションにて遠隔コントローラをご使用になる場合の遠隔コードの接続用コネクタです(遠隔コントローラ通信用)。



《出力端子》 M3 20P端子台上段 締付トルク:0.5N・m

接点容量DC5V 10mA以上、DC30V 1A以下
出力コモン合計3A以下(無電圧接点信号出力)

- B1** : 送風機出力端子
送風機運転中、ONになる端子です。
- B2** : 熱風出力端子
熱風運転中、ONになる端子です。
- B3** : 温度異常出力端子
温度異常時、ONになる端子です。
- B4** : 温度警報出力端子
温度警報出力時、ONになる端子です。
- B5** : 送風機異常出力端子
送風機異常出力時、ONになる端子です。
- B6** : オーバーヒート出力端子
オーバーヒート時、ONになる端子です。
- B7** : 出力コモン端子
- B8・B9・B10** : 遠隔コントローラ接続用端子
オプションにて遠隔コントローラをご使用になる場合の遠隔コードの接続用端子です(遠隔コントローラ電源用)。



※ B9-B10の遠隔コントローラ電源端子には電圧DC24Vが発生していますので絶対に短絡しないでください。短絡すると必ず故障します。

注意 : サービス端子を使用される場合、必ず電源を遮断して配線してください。通電した状態で配線をおこなうと感電します。また、配線後は必ず端子カバーを取り付けてください。

注意 : サービス端子の配線はAC電源線、電力線、高調波線と隣接配線や結束をさけてください。

各出力端子の出力状況一覧

TSK-22H4・32H5

熱風発生機の動作	送風出力端子 BLW	熱風出力端子 HOT	温度異常出力端子 T.W.	温度警報出力端子 T.A	送風機異常出力端子 BW.	オーバーヒート出力端子 OVH
通常停止	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF
送風運転	ON	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF
熱風運転	ON	ON	OFF	OFF	OFF	OFF
冷却運転	ON	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF
温度警報出力	ON	ON	OFF	ON	OFF	OFF
オーバーヒート	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	ON
オーバーヒートセンサバーンアウト	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	ON
吐出温度上限を超えた場合	OFF	OFF	ON	OFF	OFF	OFF
吸入温度上限を超えた場合	ON	OFF	ON	OFF	OFF	OFF
吐出口センサバーンアウト	OFF	OFF	ON	OFF	OFF	OFF
吸入口センサバーンアウト	OFF	OFF	OFF	OFF	ON	OFF
熱風発生機内部温度異常	ON	OFF	ON	OFF	OFF	OFF
送風機異常	OFF	OFF	OFF	OFF	ON	OFF
外部センサバーンアウト	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF
各温度センサ逆接続／マイナス温度検知	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF
反相異常	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF

TSK-52H6・53H7・62H8・72H9

熱風発生機の動作	送風出力端子 B1	熱風出力端子 B2	温度異常出力端子 B3	温度警報出力端子 B4	送風機異常出力端子 B5	オーバーヒート出力端子 B6
通常停止	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF
送風運転	ON	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF
熱風運転	ON	ON	OFF	OFF	OFF	OFF
冷却運転	ON	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF
温度警報出力	ON	ON	OFF	ON	OFF	OFF
オーバーヒート	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	ON
オーバーヒートセンサバーンアウト	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	ON
吐出温度上限を超えた場合	OFF	OFF	ON	OFF	OFF	OFF
吸入温度上限を超えた場合	ON	OFF	ON	OFF	OFF	OFF
吐出口センサバーンアウト	OFF	OFF	ON	OFF	OFF	OFF
吸入口センサバーンアウト	OFF	OFF	OFF	OFF	ON	OFF
熱風発生機内部温度異常	ON	OFF	ON	OFF	OFF	OFF
送風機異常	OFF	OFF	OFF	OFF	ON	OFF
圧力異常※ ¹	OFF	OFF	OFF	OFF	ON	OFF
外部センサバーンアウト	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF
各温度センサ逆接続／マイナス温度検知	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF
反相異常	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF

※¹ TSK-52H6、53H7、65H8、72H9のみ

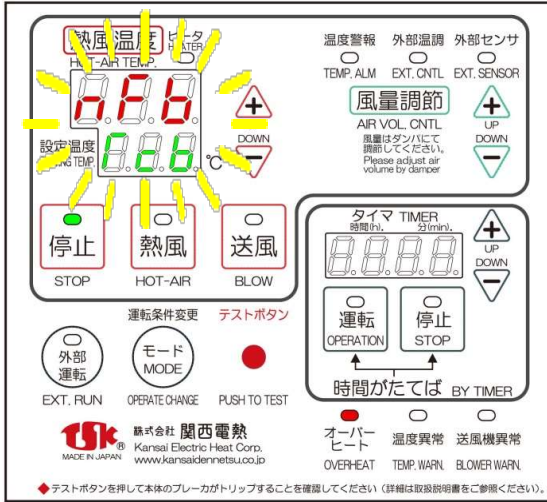
8. 異常検出

◆TSK-52H6～72H9は異常検出時と同時にブザーが発報します。各異常の復帰方法により、異常が解除されるとブザー音も停止します。

8-1 オーバーヒート

ヒータケース内が異常高温になった場合はオーバーヒートと検知して、またはヒータケース内温度管理用オーバーヒートセンサが断線した場合はバーンアウトと検知して、本体のブレーカ(NFB)がトリップし、すべての運転が停止します(風量不足過熱防止時は運転が停止するのみです)。

● オーバーヒート時



オーバーヒートランプ(赤)が点灯し、熱風温度部に『nFb』、設定温度部に『Tcb』が点滅します。

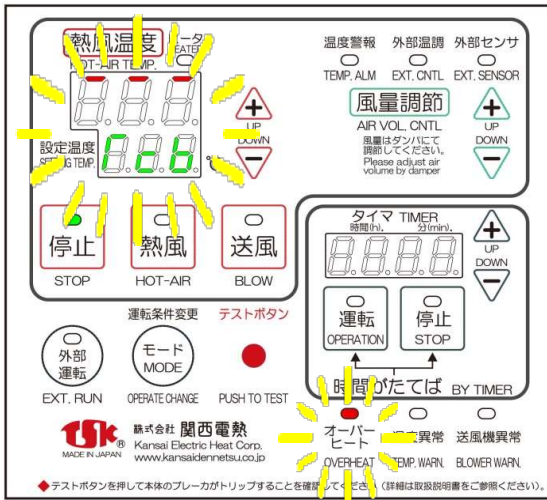
《主な原因》

- ・ フィルタの詰まり
- ・ 異物の混入による送風機モータのロック
- ・ 炉体等の十分な排気口が確保できていない
- ・ 対象ワークの近接等による吐出口の抵抗(圧力損失)が大きい

《復帰方法》

オーバーヒートの原因を取り除き、充分に冷却した後、元電源(工場電源)と本体ブレーカ(NFB)をいったんOFFにして、再度ONしてください。

● オーバーヒートセンサ バーンアウト時



オーバーヒートランプ(赤)が点滅し、熱風温度部に『---』、設定温度部に『Tcb』が点滅します。

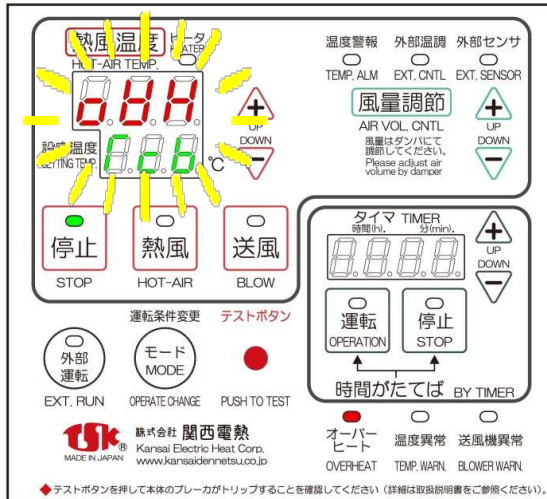
《主な原因》

- ・ オーバーヒートセンサの断線
- ・ オーバーヒートセンサ配線の断線
- ・ オーバーヒートセンサ配線コネクタの外れ

《復帰方法》

一次側の電源をOFFにし、修理をお申しつけください。

● 風量不足過熱防止時 (TSK-52H6～72H9のみ)



オーバーヒートランプ(赤)が点灯し、熱風温度部に『oVH』、設定温度部に『Tcb』が点滅します。

何らかの原因で風量が減少し、ヒータ内部温度が設定吐出温度をある一定以上超えた場合に作動します。上記のオーバーヒートと互換性がありますが、ご使用状況によりどちらかが作動します。

《主な原因》

- ・ 上記オーバーヒートと同原因

《復帰方法》

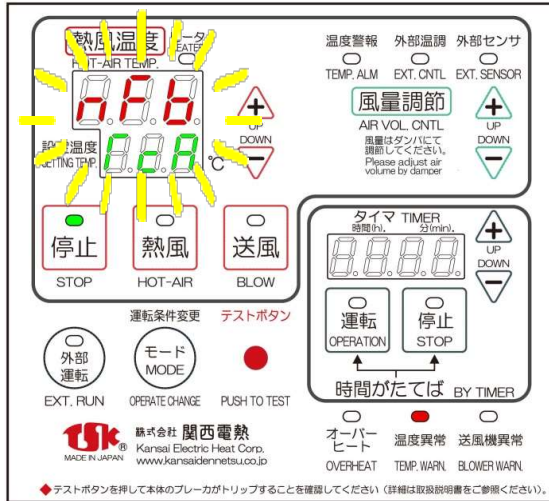
オーバーヒートの原因を取り除き、充分に冷却した後、元電源(工場電源)と本体ブレーカ(NFB)をいったんOFFにして、再度ONしてください。

オーバーヒート作動時は、原因を取り除くまで、再運転を開始しないでください。

8-2 温度異常

吐出口温度が上限を超えた場合、または吸入温度が上限を超えた場合に、熱風発生機は停止、または送風運転状態となります。各センサ断線等のバーンアウト、熱風発生機内部温度異常時にも運転を停止します。

● 吐出口温度上限を超えた場合



温度異常ランプ(赤)が点灯し、熱風温度部に『nFb』、設定温度部に『TcA』が点滅し、本体のブレーカ(NFB)がトリップしてすべての運転が停止します。

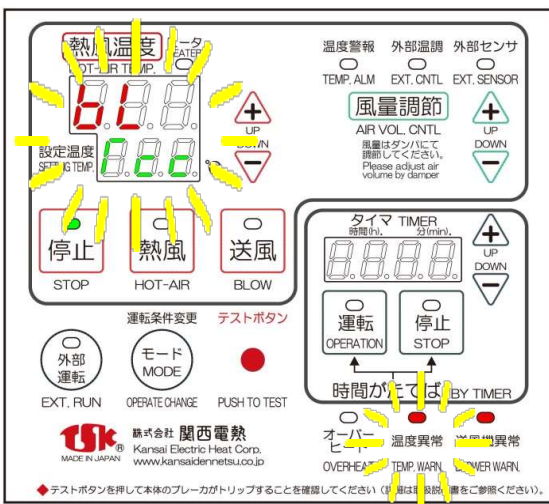
《主な原因》

- ・ 外部センサ使用時の吐出温度上限オーバー
- ・ 過大な圧力損失による風量減少
- ・ 吸入口金網やフィルタの詰まりによる風量減少

《復帰方法》

吐出口温度上限オーバーの原因を取り除き、十分に冷却した後、元電源(工場電源)と本体ブレーカ(NFB)をいったんOFFにして、再度ONしてください。

● 吸入温度上限を超えた場合



送風機異常ランプ(赤)が点灯、温度異常ランプ(赤)が点滅、熱風温度部に『bL』、設定温度部に『Tcc』が点滅し、すべての運転が停止します。

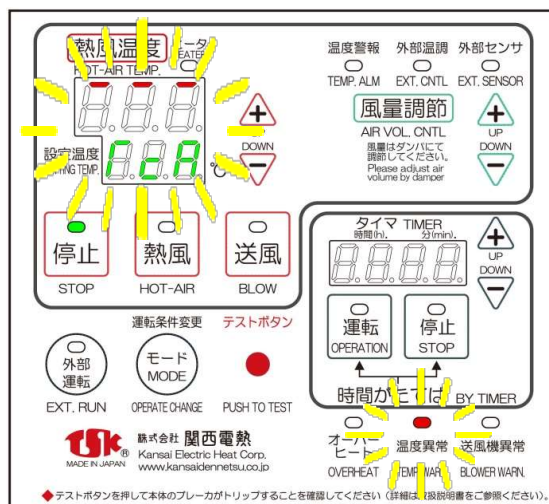
《主な原因》

- ・ 吐出側配管の締め切り状態
- ・ 圧力損失の非常に大きな配管

《復帰方法》

原因を取り除いた後、停止スイッチを押すことで解除できます。

● 吐出口センサバーンアウト



温度異常ランプ(赤)が点滅、熱風温度部に『---』、設定温度部に『TcA』が点滅し、本体ブレーカ(NFB)がトリップしてすべての運転が停止します。

《主な原因》

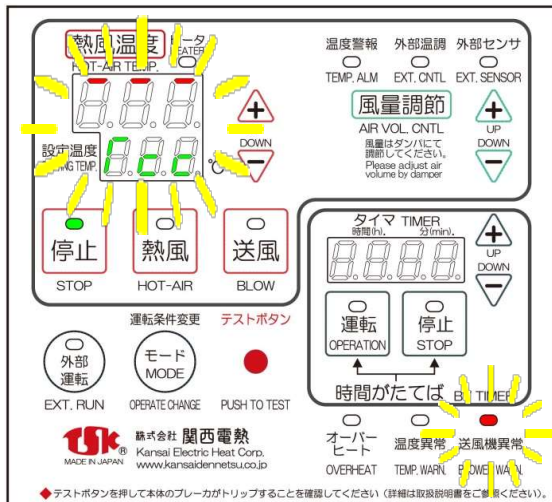
- ・ 吐出口センサの断線
- ・ 吐出口センサ配線の断線
- ・ 吐出口センサ配線の外れ

《復帰方法》

一次側電源をOFFにし、修理をお申し付けください。

注意：異常時の配線確認や配線手直しは必ず元電源(工場電源)を遮断して実施してください。

● 吸入口センサバーンアウト時



温度異常ランプ(赤)が点滅、熱風温度部に『---』、設定温度部に『Tcc』が点滅し、すべての運転が停止します。

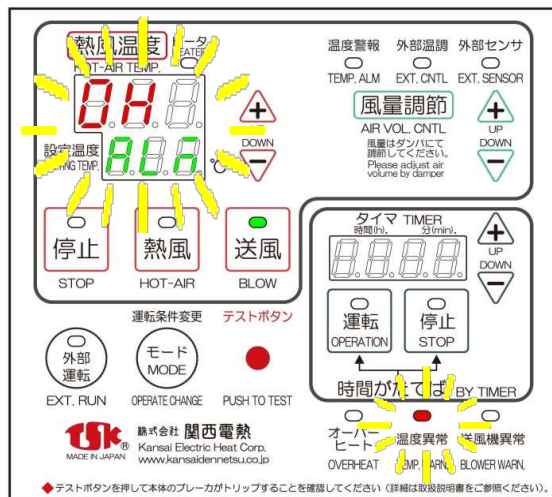
《主な原因》

- ・ 吸入口センサの断線
- ・ 吸入口センサ配線の断線
- ・ 吸入口センサ配線コネクタの外れ

《復帰方法》

本体のブレーカ(NFB)をOFFにし、修理をお申しつけください。

● 熱風発生機内部温度異常時



温度異常ランプ(赤)が点滅、熱風温度部に『OH』、設定温度部に『ALM』が点滅し、送風運転状態となります。

《主な原因》

- ・ 熱風発生機設置雰囲気温度が高い
- ・ 吐出口から漏れた熱風が操作パネル内に逆流
- ・ 炉体上部設置時の炉体放熱温度の影響

《復帰方法》

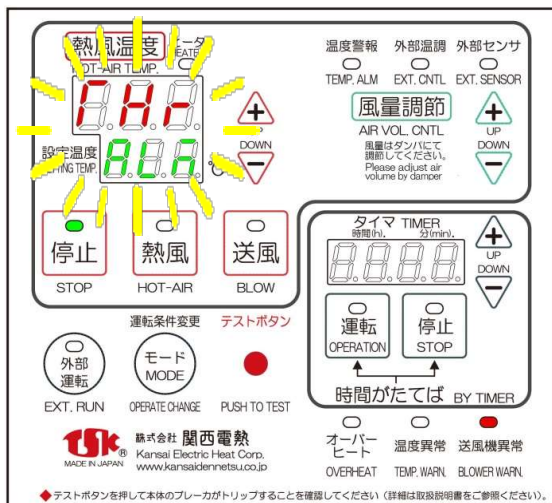
停止スイッチにて運転を停止し、熱風発生機の内部温度が下がった後、本体のブレーカ(NFB)をOFFにすることで解除できます。

注意：異常時の配線確認や配線手直しは必ず元電源(工場電源)を遮断して実施してください。

8-3 送風機異常

送風機が過負荷、過電流、ロック状態になった時、熱風発生機のすべての運転は停止します。

● 送風機異常時



送風機異常ランプ(赤)が点灯し、熱風温度部に『Thr』、設定温度部に『ALM』が点滅します。

《主な原因》

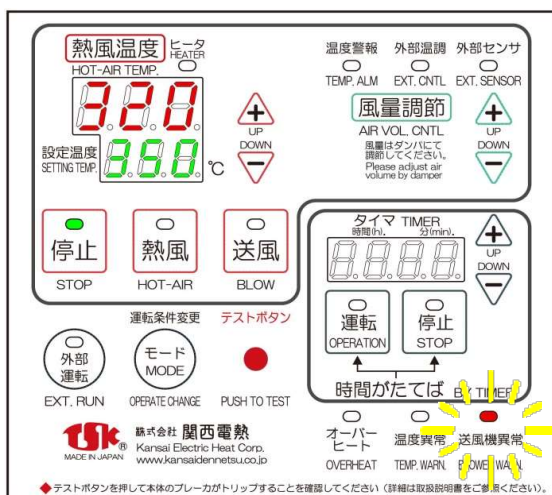
- ・ ベアリングの摩耗
- ・ 異常電圧(定格以外の電圧)
- ・ 圧力損失の大きい配管
- ・ 極端に開口部のせまいノズル等の使用

《復帰方法》

異常の原因を確認し、取り除いた後、本体のブレーカ(NFB)をいったんOFFにし、再度ONしてください。

● 圧力異常時 (デジタル圧力センサ搭載機種: TSK-52H6~72H9のみ)

吐出側空気圧力が連続使用可能最高吐出圧力を超えると、デジタル圧力センサの出力1表示灯が点灯して、警報音が発報します。



吐出側空気圧力が連続使用可能最高吐出圧力を超えた状態が10分間継続した時、送風機異常ランプ(赤)が点滅し、すべての運転が停止します。熱風温度部と設定温度部には、そのときの吐出温度と設定温度が表示された状態です。

《主な原因》

- ・ 圧力損失の大きな配管
- ・ 極端に開口部のせまいノズル等の使用
- ・ バルブ等による風量の絞りすぎ

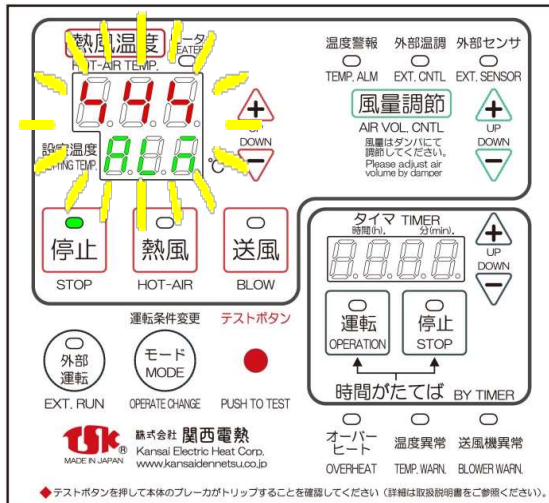
《復帰方法》

原因を取り除き、連続使用可能最高吐出圧力以下で運転できる状態になった後、停止スイッチを押すことで解除できます。

注意：異常時の配線確認や配線手直しは必ず元電源(工場電源)を遮断して実施してください。

8-4 その他の異常

● 周波数異常 (TSK-52H6~72H9のみ)



一次側電源からの供給周波数が定格周波数(50/60Hz)の±3Hzを超えた場合に、熱風温度部に『SYS』、設定温度部に『ALM』が点滅し、すべての運転が停止します。

《主な原因》

- 一次側電源に発電機等を使用することによる定格周波数の未供給

《復帰方法》

定格周波数の供給を確認の上、元電源(工場電源)と本体のブレーカ(NFB)をいったんOFFにして、再度ONしてください。

◆ 周波数異常発生時、一次側電源の改善、及び対処方法について当社ホームページに掲載しています。

当社ホームページにアクセス <http://www.kansaidennetsu.co.jp>



日本語 → メインメニュー → テクニカルデータ

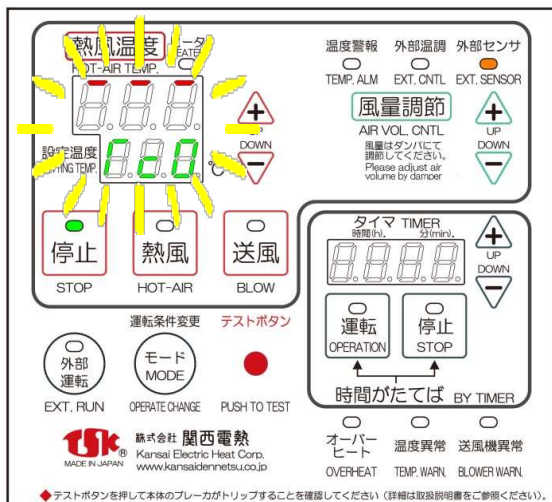


テクニカルデータ内の『TSK熱風発生機周波数異常発生時の対処方法』をご覧ください。

注意：異常時の配線確認や配線手直しは必ず元電源(工場電源)を遮断して実施してください。

● 外部センサバーンアウト時

オプションの外部センサを使用して、離れた場所の温度を管理している場合、外部センサが断線等のバーンアウト時、熱風発生機は停止します。



熱風温度部に『---』、設定温度部に『Tc0』が点滅します(外部センサランプは点灯状態です)。

《主な原因》

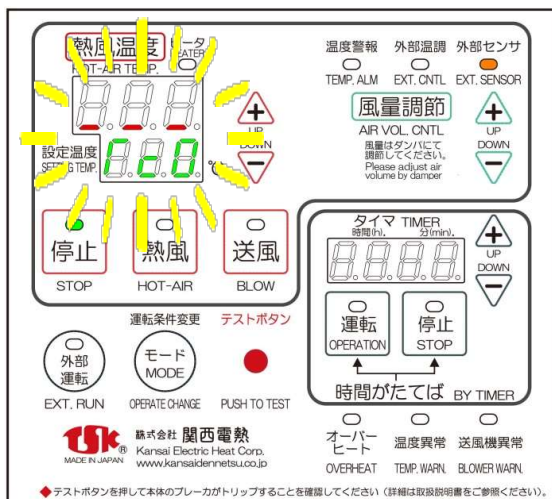
- ・ 外部センサの断線
- ・ 外部センサ補償導線部の断線
- ・ 外部センサ端子の外れ

《復帰方法》

外部センサを確認した後、停止スイッチを押すことで解除できます。

● 各温度センサ逆接続、またはマイナス温度検知

各温度センサ(外部センサ含む)が逆接続の場合、または-15℃以下を感知した場合(内部温度センサのみ-10℃)、熱風発生機は停止します。



熱風温度部に『---』、設定温度部に各センサの表示が点滅します。

- ・ 外部センサ : Tc0
- ・ 吐出口センサ : TcA
- ・ 内部温度センサ : TcM
- ・ 吸入口センサ : Tcc
- ・ オーバーヒートセンサ : Tcb

《主な原因》

- ・ 外部センサの逆接続
- ・ 各センサ(外部センサ以外)の配線手直しによる逆接続
- ・ 雰囲気、及び吸入温度がマイナス温度

《復帰方法》

外部センサを確認後、またはマイナス条件を改善後、停止スイッチを押すことによって解除できます。外部センサ以外の逆接続の場合は、修理をお申しつけください。

● 反相異常時

電源線の接続が逆相になった場合に、熱風発生機は操作不可となります。



各表示が本体のプレーカ(NFB)をONにした時と同じ表示内容となり、別途、逆相ランプ(赤)が点滅します。

《主な原因》

- ・ 電源線の逆接続

《復帰方法》

電源の接続線のうち、いずれか2線を入れ替えてください。

注意：異常時の配線確認や配線手直しは必ず元電源(工場電源)を遮断して実施してください。

保証

- 本機の保証期間は、お買い上げ日より3年です。
- 保証期間内に取扱説明書に従った正常な使用状態で故障した場合には、下記の内容に基づき無償修理いたします。ただし、大阪本社と東京支社より50km以上、及び離島への出張の場合は、交通費、宿泊費に要する実費をいただきます。
- この装置によって生じた、いかなる支出、損益、その他の損失に対してなんら責任を負いません。
- 修理した部品、及び処置の保証は、修理後3ヶ月間とさせていただきます。
- 次のような場合は保証の範囲に含まれません。
 - ・ 誤ったご使用や不注意なお取り扱いによる故障、及び異常電圧による故障、損傷の場合。
 - ・ 分解や改造されたもの。
 - ・ 弊社製品が原因によらないオーバーヒートによる損傷。
 - ・ 落雷、地震、台風、水害、火災や塩害による故障、損傷、及び損害。
 - ・ 結露によるさびの発生、漏電。
 - ・ ほこり、ゴミ、糸くず、オイルミスト等による損傷。
 - ・ 通電性のあるカーボン繊維等の付着や、酸性ガス、腐食性ガスによる漏電、及び故障。
 - ・ お買い上げ後の輸送、移動、落下等による故障、及び損傷。
 - ・ 代金の決済を怠ったとき。
 - ・ 取扱説明書に従った使用方法でない場合。
- 次にしめすものの費用は負担いたしません。
 - ・ 消耗部品、塗装。
 - ・ 装置を使用できなかったことによる不便さ、及び損失、または二次損失等（電話代、休業補償、商業損失等）。
 - ・ 現地修理の際に発生する交通費、宿泊費等。
- 修理困難な場所や危険な場所、高所等に設置されている場合は出張修理いたしかねます。
- 保証は日本国内において有効です。

日本国内で購入された当社製品を海外へ輸出された場合、保証は適用外となります。この場合の保証の適用は、当社工場へ返送いただいた製品の持ち込み修理のみとさせていただきます。また、持ち込み修理、及びその修理後の返却のための必要な輸出入、輸送にともなう費用はお客様のご負担となります。



熱風発生機

製造
販売元



株式会社 関西電熱

本社 〒577-8566 東大阪市高井田西5丁目4番18号

TEL (06) 6785-6001(代) FAX (06) 6785-6002

東京支社 〒144-0035 東京都大田区南蒲田2丁目4番4号

TEL (03) 5710-2001(代) FAX (03) 5710-2005

ホームページ www.kansaidennetsu.co.jp